

平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■共同研究 8	公益目的事業 19
主査名	藤原章正 ・ 広島大学大学院国際研究協力科 教授	
研究テーマ	消費者行動と施設配置の相互作用を考慮した交通政策評価に関する研究：小売業を例に※※	

研究の目的：

本研究は、（１）消費者行動と施設立地の間で生じうる相互作用の形態を整理し、（２）広島市の小売業を対象に、交通政策が買物目的地選択及び商業施設の立地パターンに与える影響をシミュレーションすることを目的としている。具体的には、（１）については、交通・経済分野においてこれまで行われてきた相互作用に関する研究を網羅的にレビューし、モデル構造、相互作用項の設定方法等のバリエーションを整理する。（２）については、広島市を対象に、交通日誌調査データおよび商業統計調査データを用いて買物需給均衡モデルを構築し、交通政策が消費者の買物目的地選択及び商業施設の立地パターンに与える影響を評価する。

研究の経過（４月～９月）：

これまでに計２回の研究会を開催した。第１回目（４月２８日）は、まず、藤原主査による課題の内容に関する説明が行われ、その後、（１）消費者行動と商業施設立地の市場的相互作用と非市場的相互作用のモデル分析（広島大学、力石真氏）、（２）空間競争を考慮したガソリンスタンドの撤退行動の実証分析（神戸大学、瀬谷創氏）の発表があった。買物、ガソリンスタンドの文脈において生じうる相互作用の形態等について参加者で議論した。

第２回目（６月２０日）は、（１）観光客の交通行動と滞在行動に関する研究（広島工業大学、伊藤雅氏）、（２）人口減少地域における公共交通サービスの設計に関する研究（復建調査設計株式会社、吉野大介氏）の研究報告があり、観光地の整備や公共交通の整備が利用者行動に及ぼす影響等について参加者で議論した。

下期へ向けて（課題等）：

第３回目の研究会を１１月１４日に神戸大学にて行う予定をしている（関連する先駆的研究を行っている織田澤利守准教授に講演を依頼）。

現在、上記研究目的の（１）消費者行動と施設立地の間で生じうる相互作用の形態の整理、については概ね完了しており、第四回、または、第五回目の研究会にて発表し、フィードバックを得る予定である。研究目的（２）については、現在モデルを推定している段階にあり、（１）でのレビュー結果を踏まえて、幾つかの異なる相互作用形態を想定したモデルを構築する予定である。

研究メンバー（敬称略）：

藤原章正（主査・広島大学） 渡邊一成（福山市立大学） 楠橋康広（西日本高速道路エンジニアリング 中国） 森山昌幸（バイタルリード） 森井紀裕（中電技術コンサルタント） 張峻屹（広島大学） 塚井誠人（広島大学） 伊藤雅（広島工業大学） 宮崎耕輔（香川高等専門学校） 神田佑亮（オリエンタルコンサルタンツ） 布施正暁（広島大学） 嶋本寛（宮崎大学） 桑野将司（鳥取大学） 力石真（広島大学） 瀬谷創（広島大学） 吉野大介（復建調査設計） 福井のり子（広島大学） 西川文人（広島大学）